



当社の社名「Delta-Fly」は
「Dragonfly（とんぼ）」に由来しています。

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月15日

Delta-Fly Pharma株式会社
(東証グロース:4598)

2026年3月期のサマリー

研究開発の取り組み	<ul style="list-style-type: none">● 開発パイプライン6本のうち、5本が臨床試験を推進● 各パイプラインの特許承認取得および申請、更新など選択と集中への取り組み
パイプラインの進捗	<ul style="list-style-type: none">● P-3(P-2/3含む)の取り組みとして、DFP-10917単剤、DFP-14323、DFP-17729● P-2(P-1/2含む)の取り組みとして、DFP-10917+VEN、DFP-14927、DFP-11207
財務活動	<ul style="list-style-type: none">● 機動性の高い資金確保とファシリティ方式による社債を組み合わせ調達を実行<ul style="list-style-type: none">① 4月に第10回新株予約権及び第2回無担保社債(私募債)の発行② 1月に第11回新株予約権の発行
2027年3月期計画	<ul style="list-style-type: none">● 開発パイプライン臨床試験を着実に進めること● フェーズの進んでいるパイプラインの導出交渉を進めること● 財務体質改善と強化に取り組むこと

2026年3月期 パイプラインの状況

開発品	開発段階	2026年3月期 研究開発の進捗状況
<p>DFP-10917 (点滴静注剤) 急性骨髄性白血病 (再発・難治性)</p>	<p>P-3 試験終了 (米国)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 第3相試験の中間解析資料を安全性独立委員会(DSMB)に提出を行い、DSMBより治験実施計画書で設定されていた優越性が検証されなかったことから、本試験を中止する旨の報告を受け取りました DSMB から安全性による中止ではなく、患者の多様性を考慮し、特定のサブグループで有効性の差異を検証する価値があるとの見解も示されました 再発・難治性急性骨髄性白血病(R/R AML、3次・4次治療)患者を対象とした第3相試験の中間解析において、主要評価項目では対照群との有意差は認められなかったものの、以下の有効な結果が得られました。 <ol style="list-style-type: none"> 奏効率(ORR)は対照群を上回る数値を確認 対照群のうち強化療法群との層別解析において、全生存期間(OS)が長い結果を確認 TP53を含む予後不良の遺伝子変異を有する患者集団において有効性を示唆 本報告を受け、DFP-10917単剤による条件付きNDA(新薬承認申請)に向けて、米国FDA(食品医薬品局)との協議の準備を進めております
	<p>P-1/2 試験中 VEN併用 (米国)</p>	<ol style="list-style-type: none"> P-2部分の症例登録は、第2段階目標の症例登録が完了いたしました データモニタリング委員会(DMC)からの評価結果として、安全かつ忍容性が高いと判断し、今後の試験においてこのレジメンと投与量を推奨する <ol style="list-style-type: none"> 第1相パート:奏効率 50% (CR:1例、MLFS:2例) 第2相パート:奏効率 53% (CRi:3例、MLFS:3例、PR:3例) 4例において造血幹細胞移植(SCT)へ移行 二次治療AML患者を対象とした臨床第3相試験の実施に向けて、米国FDAとの臨床第2相試験終了時相談(End of Phase 2 Meeting)を実施する予定
	<p>P-1 試験中 (日本)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 日本新薬によるP-1を継続

開発品	開発段階	2026年3月期 研究開発の進捗状況
DFP-14323 (経口剤) 末期の肺がん	P-3 試験中 (日本)	1. 臨床第3相比較試験を国内約30施設で症例登録を継続中
DFP-17729 (経口剤) 末期の膵臓がん	P-2/3 試験中(日本)	1. 昨年8月に臨床第2/3比較試験の第2相部分の第1症例が登録され、現在、国内16施設で症例登録を継続中 ① 日本で前例のない「アダプティブ・シームレス第2/3相デザイン」を採用 ② エンドポイントである生存期間を効率的に検証するもの ③ 第2相部分で確認される優越性の程度に基づいて、第3相部分の症例数が増減するデザイン 2. 今年7月頃には症例登録が完了する見込みです 3. データの解析作業に数か月を要する見込みであり、その間に第3相部分の準備等を進め、速やかに臨床第3相試験に移行する予定です
DFP-11207 (経口剤) 胆道がん	医師主導治験 P-1/2試験中(日本)	1. 今年1月、一般社団法人 日本肝胆膵オンコロジーネットワーク(代表理事・理事長: 古瀬 純司)と共同で DFP-11207について、胆道がんに対する医師主導治験(臨床第1/2相試験)を開始 2. 神奈川県立がんセンター、大阪国際がんセンター及び埼玉県立がんセンターにおいて実施予定
DFP-14927 (静注剤) 膵臓がん胃がん 骨髄異形成症候群	P-1 拡大試験中 (米国)	1. 臨床第1相拡大試験は、がん組織において、GEM/nab-PTX 併用療法が無効の膵臓がん患者を対象に、病勢コントロール率(DCR)の改善 25%以上を効果指標として実施する予定

2026年3月期 決算概要と2027年3月期予想

損益計算書

事業収益の計上はなく、事業費用については主にDFP-10917関連の研究開発費※が進展に伴い増加しました。全体としては概ね通期予想どおりに着地しました。

(単位:百万円)

	2026年3月期	2026年3月期予想		2025年3月期(前期)	
	通期実績(a)	通期予想(b)	進捗率(a/b)	通期実績(c)	増減(a-c)
事業収益	—	—	—	—	—
事業費用	1,605	1,500	107%	1,708	-103
研究開発費	1,330	1,212	110%	1,437	-107
一般管理費	275	288	95%	270	5
営業利益	△1,605	△1,500	107%	△1,708	103
経常利益	△1,623	△1,510	107%	△1,718	95
当期純利益	△1,625	△1,512	107%	△1,721	96

※ ① DFP-10917 試験進展に伴う追加費用(サブグループ解析・試験整理等)

② DFP-10917+VEN 併用療法の臨床開発費用

貸借対照表

研究開発の加速に伴い、現預金減少・債務増加が生じていますが、想定内の計画的投資であります。また、第11回新株予約権による資金調達を確保しており、財務規律を適切に維持しながら管理してまいります。

(単位:百万円)

	2026年3月期	2025年3月期(前期)	
	通期実績(a)	通期実績(b)	増減(a-b)
流動資産	207	394	-187
現金及び預金	145	338	-193
その他	62	56	6
固定資産	39	39	0
資産合計	246	434	-188
流動負債	212	156	56
負債合計	212	156	56
純資産合計	33	277	-244
負債・純資産合計	246	434	-188

■ 前年同期との比較

● 流動資産

研究開発投資の実行に伴い、現金及び預金残高は減少したものの、将来成長に向けた先行投資を継続。

● 流動負債

主に未払金の増加によるものです。
これは、研究開発活動の進展・拡大に伴う計画的な投資を背景とした、正常な営業債務の増加です。

● 純資産

新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金は増加した一方で、当期純損失の計上により利益剰余金が減少。

(単位:百万円)

	2026年3月期	2027年3月期予想	
	通期実績(a)	通期予想(b)	増減率(b/a)
事業収益	—	—	—
事業費用	1,605	1,330	83%
研究開発費	1,330	1,070	80%
一般管理費	275	260	95%
営業利益	△1,605	△1,330	83%
経常利益	△1,623	△1,340	83%
当期純利益	△1,625	△1,350	83%

今後の見通し

●事業収益

マイルストーン収益の獲得の可能性はあるものの、交渉タイミングおよび開発進捗の不確実性を考慮し、現時点では収益を織り込まない計画です。

●事業費用

一部治験の完了に伴う効率化により、研究開発費は減少を見込むものの、重要パイプラインへの投資は継続していく予定です。

●主な研究開発計画

- ・DFP-10917+VEN併用:臨床第1/2相試験のフォローアップ及び第3相試験開始に向けた準備。
- ・DFP-14927:米国における第1相拡大試験を継続する予定。
- ・DFP-14323:国内における臨床第3相試験(大規模比較試験)を継続する予定。
- ・DFP-17729:国内における臨床第2/3相試験を継続する予定。

今回の資金調達は研究開発、治験の進展のために充当

当期ファイナンス進捗状況

第10回
新株予約権
及び
第2回
無担保社債

約11.5億円調達完了

第11回
新株予約権

約7.19億円調達予定
行使率:約61% (2026年4月末)

資金使途

<研究開発費>		
①DFP-14323	臨床第3相試験	650百万円
②DFP-17729	臨床第2/3相試験	250百万円
③DFP-10917	臨床第3相試験 承認申請関連費用	100百万円
<その他>		
開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等) 特許関連費用等(関連経費)		71百万円

<研究開発費>		
①DFP-10917+VEN併用	臨床第1/2相試験 第3相試験	349百万円
②DFP-10917	臨床第3相試験	120百万円
③DFP-14927	臨床第1相拡大試験	150百万円
<その他>		
開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等) 特許関連費用等(関連経費)		100百万円

調達資金の充当状況

(単位:百万円)

資金調達	調達額 (実績・予定)	資金使途	充当額	使用期間
新株式 (払込済み) 第7回新株予約権 (全て行使済み)	1,443	DFP-17729の臨床第1相/第2相試験及び臨床第2相/第3相試験の研究開発費 DFP-11207の胆道がんに対する医師主導治験の研究開発費 DFP-14927の臨床第1相試験及び次臨床試験の研究開発費 DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発費及び承認申請関連費用 開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費)及び特許関連費用等(経費)	970	2023年11月～2026年11月 2024年4月～2028年3月期 2023年11月～2025年3月期 2023年11月～2025年4月 2023年11月～2025年3月期
第8回新株予約権(全て行使済み) 第9回新株予約権(未行使)	1,114	DFP-10917+VEN 併用の臨床第1/2相試験の研究開発費 DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発関連費用 DFP-14927の臨床第1相拡大試験の研究開発費 開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等)及び特許関連費用等(関連経費)	1,114	2024年10月～2026年3月期 2024年10月～2026年3月期 2024年10月～2025年12月 2024年11月～2025年12月
第10回新株予約権(全て行使済み)	1,157	DFP-14323の臨床第3相試験の研究開発費 DFP-17729の臨床第2/3相試験の研究開発費 DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発関連費用 開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等)及び特許関連費用等(関連経費)	467	2025年6月～2027年6月 2026年12月～2029年12月 2025年4月～2025年12月 2026年1月～2026年9月
第11回新株予約権(行使中)	719	DFP-10917+VEN併用の臨床第1/2相試験の研究開発費及び第3相試験の研究開発費 DFP-10917の臨床第3相試験の研究開発関連費用 DFP-14927の臨床第1相拡大試験の研究開発費 開発体制・管理体制の強化(報酬・人件費等)及び特許関連費用等(関連経費)	120	2026年2月～2027年3月期 2026年2月～2026年9月 2026年2月～2027年3月期 2026年10月～2027年3月
合計	4,433		2,671	

(単位:百万円)

対象	調達額 (実績・予定)	内容	充当額	2026年3月末までの充当状況
DFP-10917	777	臨床第3相試験の研究開発費及び承認申請関連費用	698	実施中
DFP-10917 + VEN 併用	849	臨床第1/2相試験の研究開発費	504	実施中
DFP-11207	180	胆道がんに対する医師主導治験の研究開発費	45	実施中
DFP-14927	500	臨床第1相試験及び次試験の研究開発費	362	実施中
DFP-14323	650	臨床第3相試験の研究開発費	227	実施中
DFP-17729	900	臨床第1相/第2相試験及び次試験の研究開発費	308	実施中
人件費及び経費等	577	開発体制、管理体制の強化、特許関連費用等	527	実施中

2027年3月期の計画

開発パイプラインの状況と今後のスケジュール

開発品	開発地域	開発段階	上市後の最大年間製品販売予測 (億円)	公表時点	2026年3月期		2027年3月期		2028年3月期		2029年3月期		2030年3月期		2031年3月期以降
					上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
DFP-10917	米国	自社 VEN併用 P-1/2 P-3準備	Global 1200	今期計画	P-1/2 試験中		P-3 準備		P-3 試験予定 <フォローアップ・解析>						上市見込み
				前期公表分	P-1/2 試験中										
		今期計画		P-3 試験終了 <FDA報告・相談>											
		前期公表分		P-3 試験中<フォローアップ・解析>											
	日本	他社 P-1	国内 100	今期計画	P-1 試験中										
				前期公表分	P-1 試験中										
DFP-14323	日本	自社 P-3	国内 100	今期計画	P-3 試験中		<フォローアップ・解析>		申請準備予定		上市見込み				
				前期公表分	P-3 試験中		<フォローアップ・解析>		申請準備予定		上市見込み				
DFP-17729	日本	自社 P-2/3	国内 50 × n	今期計画	P-2/3 試験開始		申請準備予定		上市見込み						
				前期公表分	P-2/3 試験開始		申請準備予定		上市見込み						
DFP-11207	日本	医師主導 P1/2	NA	今期計画 (新設)	P-1/2 試験中 <フォローアップ・解析>										
DFP-14927	米国	自社 P-1拡大	Global 300	今期計画	P-1 拡大試験中										
				前期公表分	P-1 拡大試験中										
DFP-10825	未定	自社 P-1 準備	NA	今期計画	P-1 準備										
				前期公表分	P-1 準備										

注1 「上市後の最大売上高予測」は、「薬事ハンドブック2026(じほう)」より、当社における1年間での最大製品販売額(死亡者数×類似疾患医薬品薬価×独自係数)にて算出しました。また、当該製品販売額は各パイプラインのライセンスアウト後におけるロイヤリティ収入等を予測したものであり、将来的には変動することがあります。

注2 開発品の製造・販売承認については、開発地域の規制当局からの承認が認められた場合、順次その他の地域(例えば:米国、欧州、アジアなど)の拡大を見込んでおりますが、その他の地域の規制当局による承認が必要となります。

注3 上記、開発段階及びスケジュールは、今後、変更される可能性があります。

2027年3月期の導出活動(事業開発)、財務活動を展開する

導出活動

開発が進んでいるパイプラインを基本として
海外の製薬企業と積極的な交渉を進める

<導出活動>

- DFP-10917関連を中心に新たな提携先の獲得
- その他パイプラインの海外提携
- 共同開発も模索

財務活動

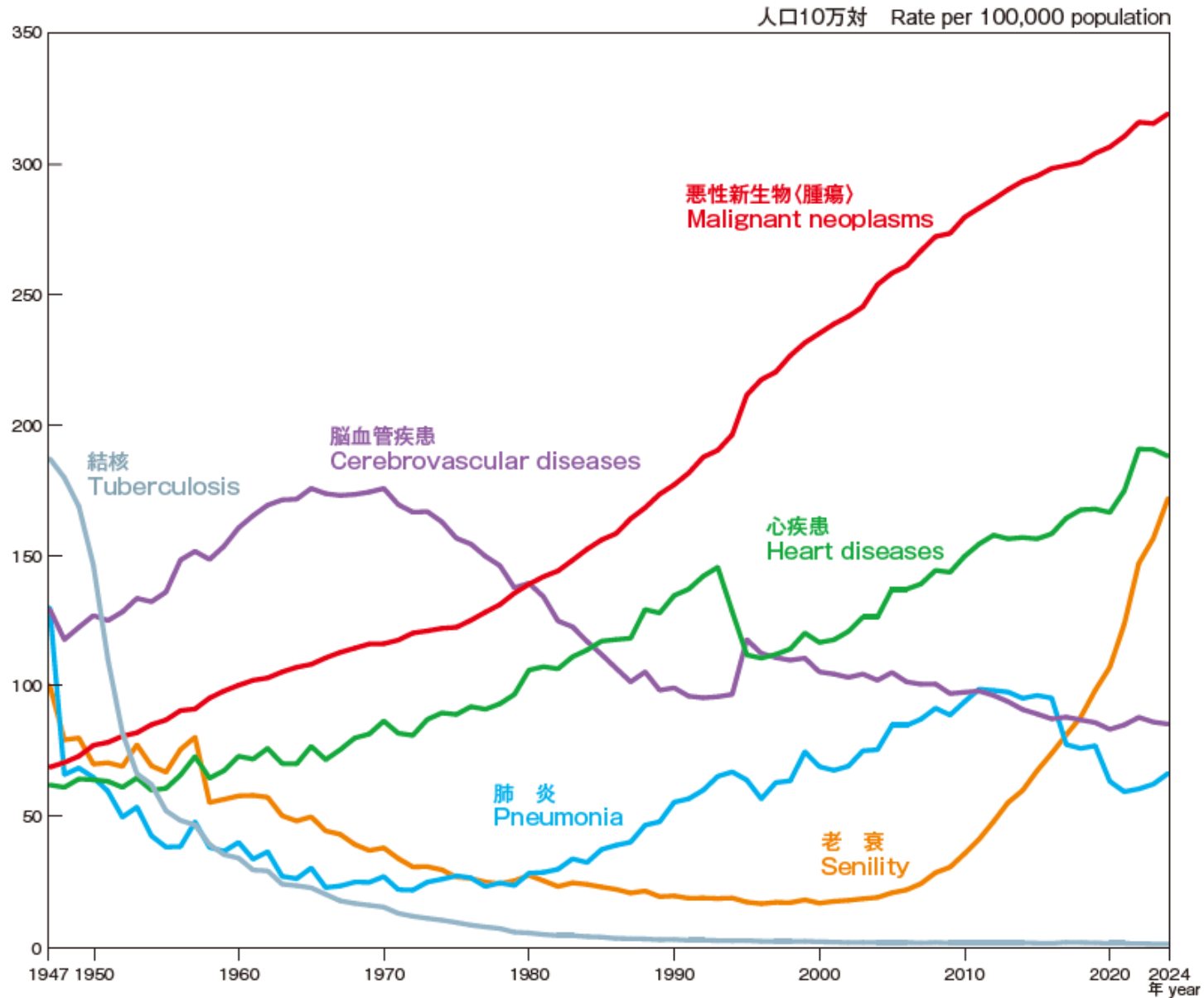
研究開発を推進するために、ライセンス活動
の深耕と機動性の高い資金調達を実施する

<財務活動>










- 導出活動による研究開発費の獲得と新たなスポンサーの獲得
- ファイナンス・ストラクチャーを検討し、機動性の高い資金調達活動を実行

- 本資料は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。
- 本資料は、当社に関する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来に対する見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の結果が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

Appendix



出所 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計 2026」(厚生労働省人口動態統計)より作成

開発品	特長	開発段階			適応																														
DFP-10917 (点滴静注剤)	効果と安全性のバランスに優れ、 末期の血液がんの治療に最適	P-3 試験終了 P-1/2試験中 P-1 試験中	(米国) (米国+VEN) (日本)	急性骨髄性白血病 (再発・難治性)																															
DFP-14323 (経口剤)	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="522 432 733 549">地域</th> <th data-bbox="733 432 1065 549">前臨床試験</th> <th colspan="3" data-bbox="1065 432 2063 549">臨床試験</th> <th data-bbox="2063 432 2502 549">ライセンス企業</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th data-bbox="1065 549 1396 649">P-1</th> <th data-bbox="1396 549 1727 649">P-2</th> <th data-bbox="1727 549 2063 649">P-3</th> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="522 549 733 649"></td> <td colspan="4" data-bbox="733 549 2063 649">臨床第3相試験終了</td> <td data-bbox="2063 549 2502 649"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="522 649 733 749"></td> <td colspan="4" data-bbox="733 649 2063 749">臨床第1/2相試験中</td> <td data-bbox="2063 649 2502 749"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="522 749 733 863"></td> <td data-bbox="733 749 1065 863">臨床第1相試験中</td> <td data-bbox="1065 749 1396 863"></td> <td data-bbox="1396 749 1727 863"></td> <td data-bbox="1727 749 2063 863"></td> <td data-bbox="2063 749 2502 863">日本新薬(株)</td> </tr> </tbody> </table>	地域	前臨床試験	臨床試験			ライセンス企業			P-1	P-2	P-3			臨床第3相試験終了						臨床第1/2相試験中						臨床第1相試験中				日本新薬(株)				
地域	前臨床試験	臨床試験			ライセンス企業																														
		P-1	P-2	P-3																															
	臨床第3相試験終了																																		
	臨床第1/2相試験中																																		
	臨床第1相試験中				日本新薬(株)																														
DFP-17729 (経口剤)																																			
DFP-11207 (経口剤)																																			
DFP-14927 (静注剤)																																			
DFP-10825 (腹腔投与剤)																																			

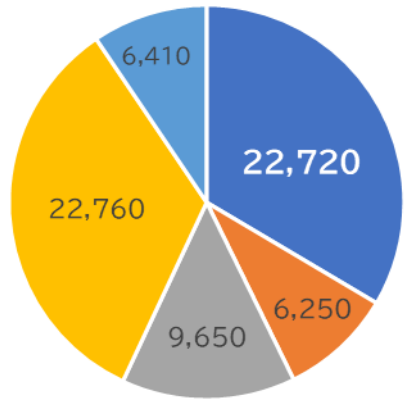
特許取得国



白血病の年間死亡者数(人)

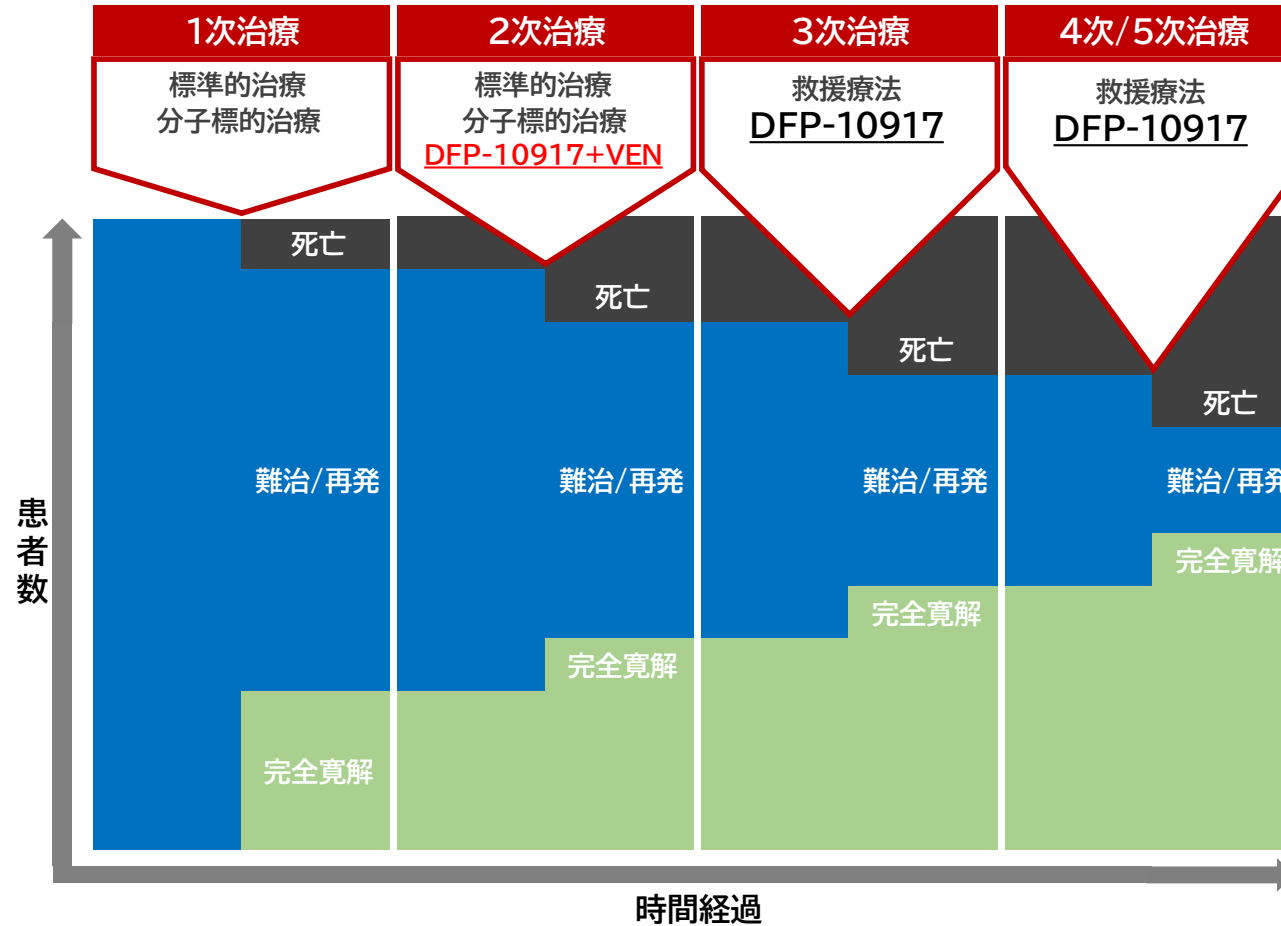
世界(Global)	約 100,000	日本	約 8,800
------------	-----------	----	---------

白血病 病型別罹患数(米国)

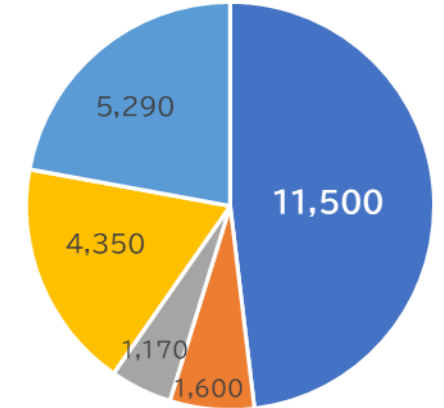


- 急性骨髄性白血病
- 慢性骨髄性白血病
- 急性リンパ性白血病
- 慢性リンパ性白血病
- その他

潜在治療患者数
約23,000人



白血病 病型別死亡数(米国)



- 急性骨髄性白血病
- 慢性骨髄性白血病
- 急性リンパ性白血病
- 慢性リンパ性白血病
- その他

治療対象患者数
約11,500人

注 下記出所データを、当社治験対象の急性骨髄性白血病罹患患者数及び死亡者数を、潜在治療患者数並びに治療対象患者数として記載しております
出所 Cancer Statistics 2026より作成

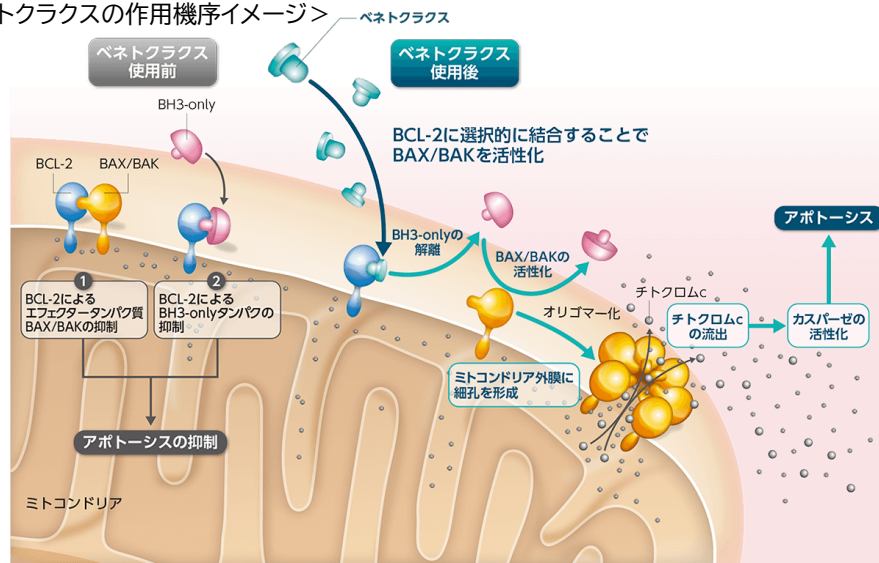
ベネトクラクス(VEN)について

アッヴィ社(AbbVie Inc.:米国・イリノイ州)が、開発した血液がん向けアポトーシス抑制分子BCL-2*阻害剤である。急性骨髄性白血病(AML)、慢性リンパ性白血病(CLL)で、すでに臨床応用され、とくに高齢患者において効果を挙げている。

臨床現場では、アザシチジン+ベネトクラクス併用療法や低用量シタラビン+ベネトクラクス併用療法として用いられている。

※ 濾胞性リンパ腫における14番染色体と18番染色体間の染色体転座に関与するタンパク質として2番目に記載されたメンバーであることを意味している。アポトーシス促進性タンパク質(BAX/BAK、BIMなど)と相互作用することにより、アポトーシス抑制性に機能している。

<ベネトクラクスの作用機序イメージ>



出所 監修: 南陽介先生(国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科)

DFP-10917+ベネトクラクス(VEN)との併用療法について

現在、ベネトクラクス(VEN)治療前歴(1回)のある急性骨髄性白血病(AML)の患者を対象とした、DFP-10917+ベネトクラクス(VEN)との併用療法として、臨床第1/2相試験を実施することとしました。









今回の実施目的は、急性骨髄性白血病(AML)の標準療法であるアザシチジン+ベネトクラクスの併用療法を超える可能性を見極めることとあります。

これにより、急性骨髄性白血病(AML)の1次治療(標準療法)後に再発や難治性のがん患者にとって選択肢を広げ、併せて、当社の治療領域を2次治療~5次治療まで広げる効果を目指します。

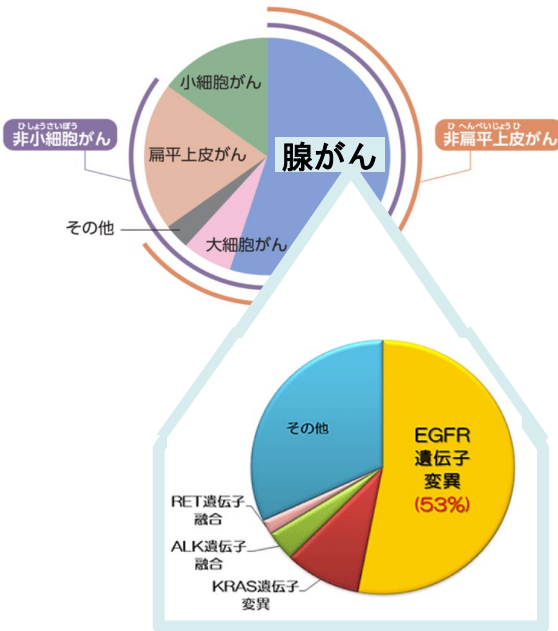
将来的には、全治療領域への拡大を考えています。

実施に当たっては、急性骨髄性白血病(AML)の治療剤開発に熟達している米国のWake Forest大学病院のほか、米国の主要な臨床施設(5施設程度)で実施を予定しています。

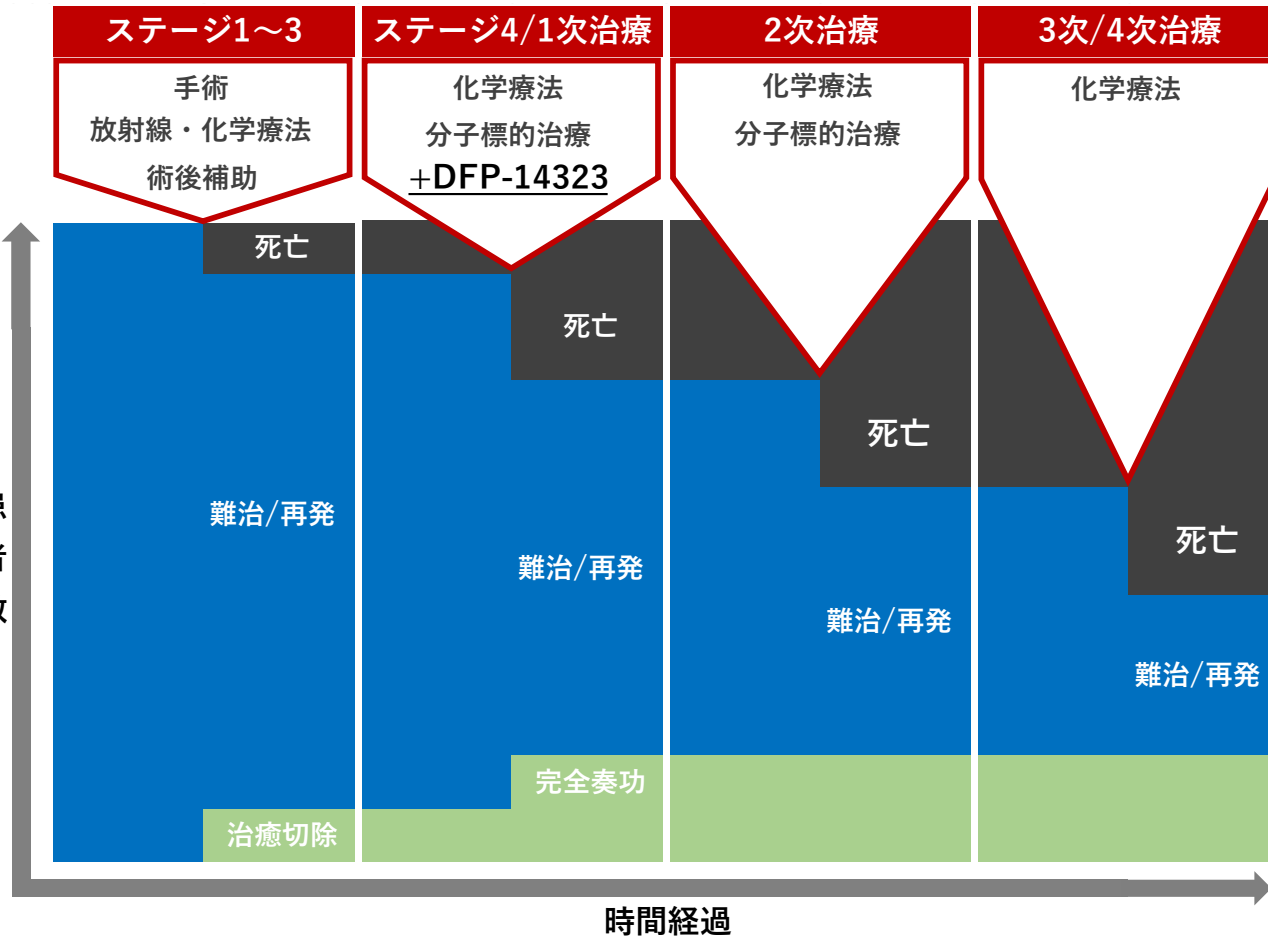
また、急性骨髄性白血病(AML)対象のDFP-10917+ベネトクラクス(VEN)の併用療法に係る発明特許は、すでに米国、日本及び台湾で成立しています。

開発品	特長		開発段階			適応	
DFP-10917 (点滴静注剤)	がん患者の免疫力を高め 既存薬を効き易くする		P-3 試験中(日本)			末期の肺がん	
DFP-14323 (経口剤)	地域	前臨床試験	臨床試験			ライセンス企業	
			P-1	P-2	P-3		
DFP-17729 (経口剤)			臨床第3相試験中			日本ケミファ(株)	
特許取得国							
DFP-11207 (経口剤)							
肺がんの年間死亡者数(人)							
DFP-14927 (静注剤)	世界(Global)	約 1,800,000	日本		約 75,700		
DFP-10825 (腹腔投与剤)							

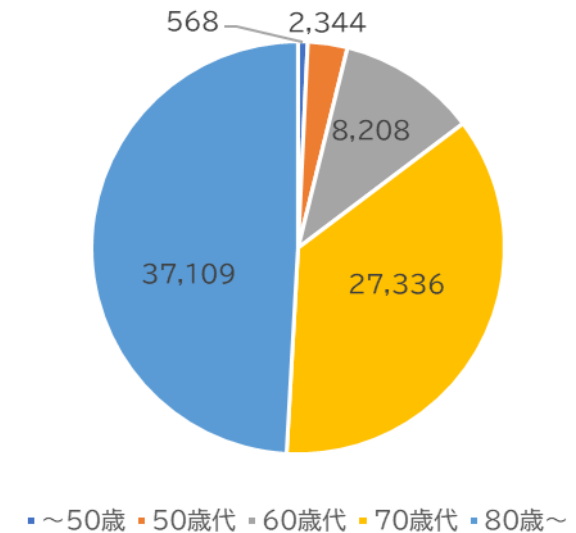
肺がん罹患者数123,989



潜在治療患者数
約32,800人









肺がん 年齢別死亡数(日本)



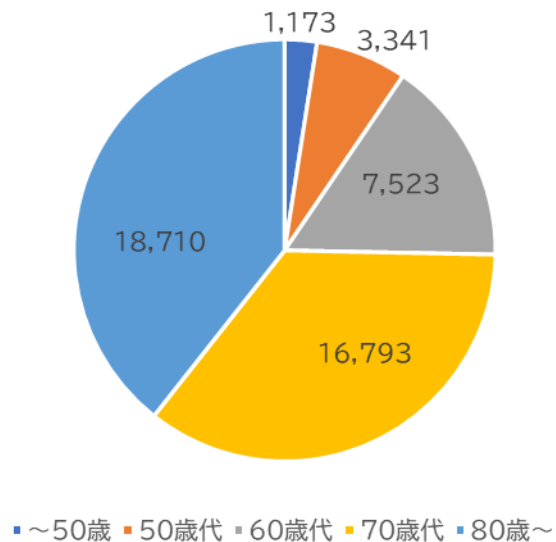
治療対象患者数
約20,000人

注 下記出所データを前提に、当社にて試算しております。肺がん罹患者数の約50%強の腺がんの内、EGFR遺伝子変異患者53%から潜在治療患者数を試算しております
また、治療対象患者数は、肺がんによる死亡患者数が合計75,565人の内、潜在治療患者数同様の前提で試算しております

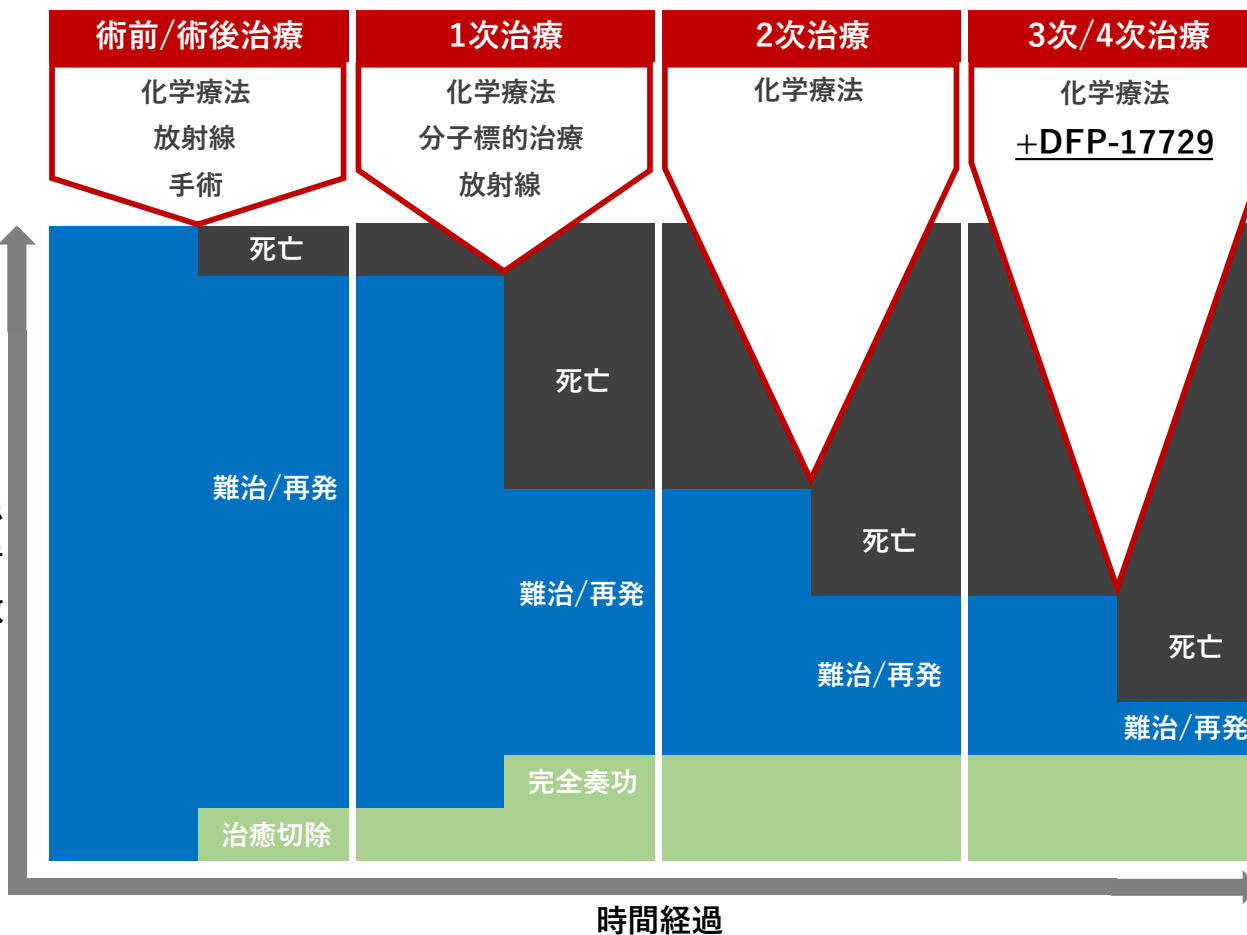
出所 日本肺癌学会「日本における肺がんの病理組織分類」より
日本医療研究開発機構プレスリリース平成28年8月9日「日本人と欧米人の肺腺がんに生じるがん遺伝子変異の違い」より
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計)より

開発品	特長		開発段階			適応
DFP-10917 (点滴静注剤)	がんの周りを掃除し がんを大人しくする		P-2/3試験中(日本)			末期の膵臓がん
DFP-14323 (経口剤)	地域	前臨床試験	臨床試験			ライセンス企業
			P-1	P-2	P-3	
DFP-17729 (経口剤)				臨床第 2 / 3 相試験中		日本ケミファ(株)
特許取得国						
DFP-11207 (経口剤)						
DFP-14927 (静注剤)	膵臓がんの年間死亡者数(人)					
	世界(Global)	約 505,000	日本	約 41,500		
DFP-10825 (腹腔投与剤)						

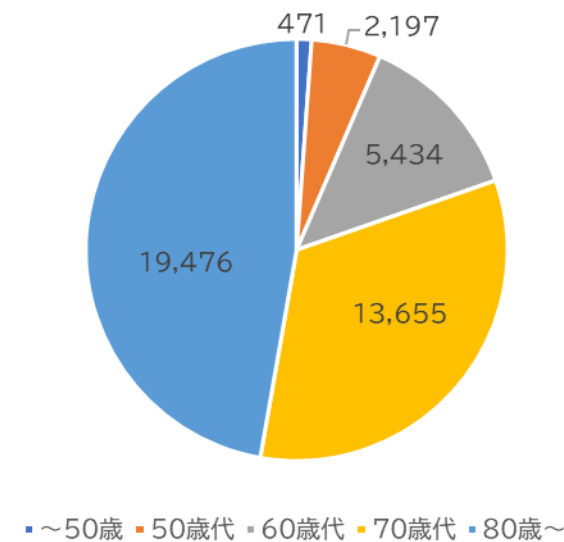
膵臓がん 年齢別罹患数(日本)



潜在治療患者数
約47,500人













膵臓がん 年齢別死亡数(日本)

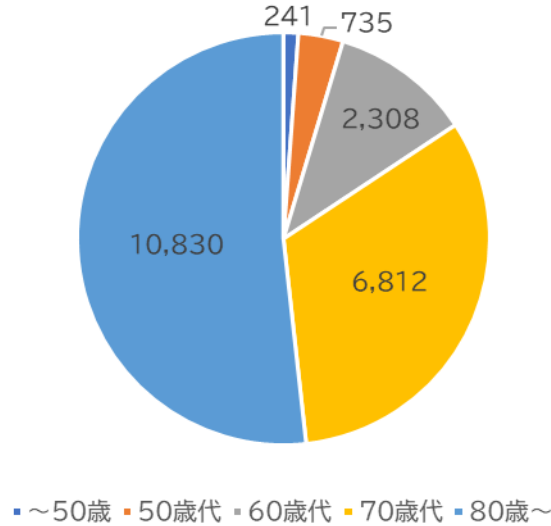


治療対象患者数
約41,500人

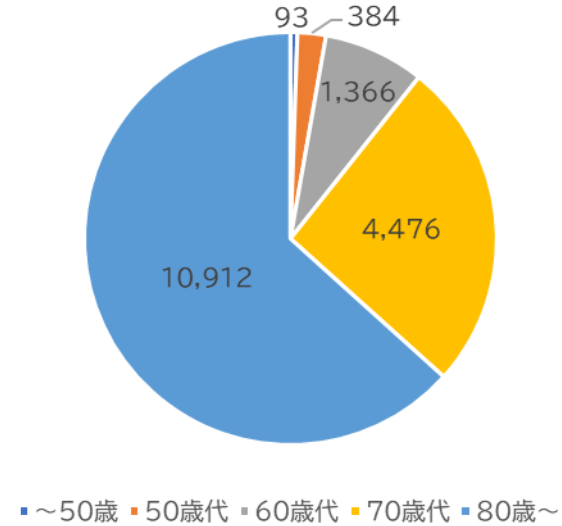
注 下記出所データより潜在治療患者数並びに治療対象患者数を記載しております
出所 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計)より作成

開発品	特長		開発段階			適応			
DFP-10917 (点滴静注剤)	核酸合成阻害による 抗腫瘍効果		医師主導治験 P-1/2 試験中(日本)			胆道がん			
DFP-14323 (経口剤)	地域	前臨床試験	臨床試験			ライセンス企業			
			P-1	P-2	P-3				
DFP-17729 (経口剤)			臨床第 1/2 相試中						
DFP-11207 (経口剤)	特許取得国								
									
DFP-14927 (静注剤)	胆道がんの年間死亡者数(人)								
	世界(Global)	約 200,000	日本	約 17,200					
DFP-10825 (腹腔投与剤)									

胆道がん 年齢別罹患数(日本)











胆道がん 年齢別死亡数(日本)





潜在治療患者数
約21,000人

治療対象患者数
約17,200人

注 下記出所データより潜在治療患者数並びに治療対象患者数を記載しております
出所 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計)より作成

開発品	特長	開発段階			適応	
DFP-10917 (点滴静注剤)	DFP-10917のDDS (長期持続点滴⇒週1回投与型)	P-1 拡大試験中(米国)			固形がん等	
DFP-17729 (経口剤)	地域	前臨床試験	臨床試験			ライセンス企業
DFP-14323 (経口剤)			P-1	P-2	P-3	
DFP-11207 (経口剤)			臨床第1相 拡大試験中			
DFP-14927 (静注剤)	特許取得国					
DFP-10825 (腹腔投与剤)	      					
	膵臓がんの年間死亡者数(人)					
	世界(Global)	約 505,000	日本	約 41,200		

開発品	特長		開発段階			適応
DFP-10917 (点滴静注剤)	がん患者の腹水を止める		P-1 試験準備			胃がん、卵巣がん、 膵臓がんの腹膜播種転移
DFP-14323 (経口剤)	地域	前臨床試験	臨床試験			ライセンス企業
DFP-17729 (経口剤)		臨床第1相試験準備	P-1	P-2	P-3	
DFP-11207 (経口剤)	特許取得国					
DFP-14927 (静注剤)						
DFP-10825 (腹腔投与剤)						



ご清聴ありがとうございました